

そして人口 30,000 そこそこ、面積 160 km² のリヒテンシュタインは、ヨーロッパの地図のなかでもルーペを使ってやっと見つけ出せるほどで、本当にちっぽけです。

しかし、ドイツの南、自動車ではほぼ一時間の所、そこはもう本物のリヒテンシュタインの領内。背面後方に控えている峰々からはもうオーストリアが始まり、ライン河を越えた向こう側は再びスイス。そしてすべての首都の例にもれず、ファドゥーツでも駐車場を確保できればラッキー。存分に手足を伸ばして、そして好奇心を発揮してみましよう。

大公と国民が共に統治

この小さな首都、ファドゥーツの小高い場所に大公一家の居城が建っています。この優れた居住地に余り象徴的な意味を付さないほうが良いでしょう。時勢にかなった

憲法により、国家権力は大公と国民に分け与えられています。従って、リヒテンシュタインは立憲君主制民主主義です。即ち、立法、行政、司法の三権を有し、共にファドゥーツに所在。

この主要地にはもちろん博物館、銀行、郵便本局、慢性的な交通渋滞、それに病院が在り、そして専任の市長がいます。他の 10 の町や村は兼職の町長や村長で、完全な自治制であり、近年はそれぞれの土地柄を保存、保持するために多大な努力をしています。

経済：急速な発展

全ヨーロッパが農産業から工業化するのに 150 年を要しましたが、リヒテンシュタインはこれをわずか 40 年足らずで成し遂げました。1924 年にスイスと関税同盟を結び 20 年後にはこれが景気が上向くため